

FOA-NEWS

通算第 40 号

2017/10/1

FOA アカデミー体験記

高橋 徹

私は 2016 年・2017 年の春季 2 シーズン FOA アカデミーに参加致しました(以下アカデミー)。結論から言えばアカデミーは審判として成長するのにとても有効なプログラムでした。今回それを体験記として発表する機会を頂きました。この体験記がこれからアカデミーに参加される皆様のご参考になれば幸いです。

アカデミー概要

アカデミーは「クルーワーク向上のためにレフリー、そしてレフリー以外のクルーが何をすべきか」を実践形式で学ぶプログラムで、今後レフリーとして活躍していく若手部員を対象に 2014 年春から実施されています。

(<http://www8.plala.or.jp/kita-f/FOA/>) 若手部員とありますが、実際は実年齢に囚われず、柔軟的に参加資格を考慮されているようです。興味を持たれたらまずは阿部浩司理事(機構改革担当)に問い合わせられるのが良いと思います。それでは初めにプログラム内容について説明します。

開校式

応募の後、理事会の審査の結果で参加が承認されると開校式の案内が来ます。まだその時点では誰が生徒なのかはわかりません。開校式は総会の前に行われます。この時に初めてアカデミー生の顔合わせとなります。始めに校長(東さん)よりアカデミーの目的、我々生徒への期待などのお話を聞きます。次に全体スケジュールとレフリーの組み合わせ(二人 1 組で 1 試合のレフリーを務めます)が発表され、その後、そのレフリーコンビごとに、校長、副校長(藪内さん)、担当理事(馬島さん、阿部浩司さん等)と、それぞれ 3 回面談を行います。「アカデミーでの君のゴールは何か?」みたいなちょっと緊張する質問もあつたりしますが、総じてアカデミーに臨む上でのアドバイスを頂きます。これら教官の皆様には全てのアカデミー対象試合のレビューを頂きますので、この時に自分が思っている弱点や改善点をお話しておくと言いついて見ていただけたらと思います。(言わなくてもすぐ見抜かれて指導されますのでご安心ください。)

試合前

レフリーコンビは前半後半どちらを担当するのか、他のメンバーにどのポジションをアサインするのか相談して

決めます。試合スケジュールにもよりますが、第 1 試合のレフリーコンビは開校式の後に相談して、総会が終わるまでに決めてしまうのが良いと思います。可能な範囲で専任ポジションをアサインしてもいいし、全員に未経験ポジションをアサインするのも可能です。

ポジションを決めたら次はそのクルーのテーマを決めます。クルーワーク向上の観点から、どんなポイントに重点を置いてオフィシェイティングするのか、それをレフリーコンビで決めてクルーに通達します。

試合当日(プリゲーム)

レフリーコンビと事務局(阿部仁さん)の三人でチーム訪問を行います。プリゲームは次戦のレフリーコンビが仕切ります。チーム訪問では、レフリーが前半後半で入れ替わること、レビュー用のビデオを撮影すること、評価のために別の審判員がチームエリアに入ることなどを説明して了承をもらい、その後チーム情報を聞いて控室に戻ります。

ゲームのオフィシェイティング

先に書いたように前半後半でレフリーが交替します。その他のポジションはその時の編成によってチェンジする場合もあります。

ポストゲーム

前半後半のコメントをクルーからもらい、レフリーもそれぞれコメントします。次戦のレフリーコンビにとって反省コメントはテーマを決める上での良いヒントになります。ミーティング終了後、居酒屋で反省会を行う場合もあります。

ゲームレビュー(準備)

翌日には試合映像が Hudl にアップされます。レフリーの二人はなるべく早く映像を確認して、コメント用紙に自分が気になったプレーにコメントを記入していきます。

コメント用紙はDropBoxで共有され、レフリーコンビの記入が終わり次第、他のクルー全員がコメントを記入していきます。

全員のコメント記入が終わったら、レフリーコンビはそのプレーの中からレビューミーティングで取り上げるプレーを選択します。レビューミーティングは2時間なので全プレーのレビューはできません。判定やメカニックの観点で議論したいプレーを大体15～20個くらいピックアップします。その上で、絶対に全員で議論したいプレー、Rの個人的な視点でレビューしたいプレー、時間があったら議論したプレーなど、優先順位をつけて整理しておきます。

レビューミーティング

校長、副校長、事務局の皆様とアカデミー生が一同に会し、Hudl映像をみながらレビューを行います。司会進行は担当したレフリーコンビです。内容によりますが1プレー大体10分から15分くらいで、クルーによる意見交換と、教官からのアドバイス、指導、叱責（冗談です、ありません）を頂きます。終了後、居酒屋で反省会を行うこともあります。

以上がアカデミーのプログラムです。これを3試合（3回）行ってアカデミーは修了します。最後のレビューミーティング後の反省会は打上げとなります。

アカデミーのメリット

それでは次に私が2シーズン、アカデミーに参加して体感したメリットをご紹介します。

メリット1

「自分のオフィシェイティング映像を見られる」
私くらいの資格ですとローカルグラウンドでのアサインが多く、自分のオフィシェイティングを映像で確認できる機会は滅多にないと思います。それが3試合も見ることができます。言い換えれば観客の目で自分のオフィシェイティングが見られるわけです。映像というのは本当に恐ろしいものです。私は初めて見た時、「え、これ俺？」みたいな衝撃がありました。自分ではスマートに動いていたつもりでも、映像で見ると自信のなさが一目瞭然。特にレフリーのアナウンス場面では目を覆いたくなるようなシーンもありました。客観的に自分の動きをすることで、改善すべきポイントが良く理解できます。何度でも見直して改善点を学習することができる、これがアカデミー最大のメリットだと思います。

メリット2

「早い時期にレフリーを経験できる」
これも私くらいの資格ですと、新人フィールドクリニック（朝霞ボウル）で1クォーターのみ経験したきり、その後レフリーにアサインされる機会はほとんどないので

はないでしょうか。アカデミーでは前半か後半でレフリーが経験できます。前半であればコイントスのセレモニーを体験できます。後半は接近したゲームの展開であれば、緊迫したラスト2ミニッツが経験できるかもしれません。個人的には2シーズン（2回）参加できれば両方経験できるのでなお良いかと思います。レフリーを経験することでレフリーの役割や気持ちを理解することができ、専任ポジションでクルーに入った時にクルーワークに良い影響が出ることは間違いなしです。

メリット3

「様々な視点からアドバイスを受けられる」
ポストゲームでベテランクルーからアドバイスを受ける機会は度々あるとは思いますが、レビューではボウルゲームを何度も経験されている教官から、いろんな視点でアドバイスを受けることができます。いつもは自分の動きだけに集中しがちですが、これらアドバイスは自分が動いている時もクルー全体のスムーズな動きを考えるポイントを教えてくれます。私はベテランクルーの一見何気無い動きが、実はそのような思考の実践であったことが理解できました。大きな気づきを得ることができる、それが3つ目のメリットだと思います。

デメリットはあるか？

あえてアカデミーのデメリットをあげるとするならば、週末だけでなく平日の時間も映像確認とレビュー準備作業、レビューミーティング参加に費やさなければならぬということでしょうか。仕事に家庭に多忙な中、アカデミーのために平日にも多くの時間を作り出さなければならぬことを考えると参加を躊躇してしまう気持ちはわかります。しかし、それだけの時間に見合うものが手に入ります。それは投資と考えれば、確実にリターンが得られるのでデメリットと言えないかもしれません。

以上が私のアカデミー体験の感想です。ここで2017度春シーズンに担当した実際のゲームについて少しご紹介します。

第1戦 日本体育大学 vs 慶應義塾大学@世田谷日体大グラウンド ポジション R

後半Rを担当、日体大リードで前半終了、後半も点差を縮められず慶應大にイライラ感が募る、ファンブルリカバー判定などで慶應大に不利な状況が続き、さらにリードを拡げられた第4Q、ついにデッドボール後の小競り合いから両チームによる乱闘が勃発。ペナルティーマーカーが三つ投げられる結果に。確認すると慶應大の某選手だけが暴力を振るったとの報告、クルーを信頼して資格没収とする。報告のため慶應大チームエリアに向かい（本当に行きたくなかったが）デビットスタントHCに説明を行う。すぐにコーチ全員に取り囲まれ、厳しいお言葉のシャワーを浴びる。その後の映像レビューで3つ

目のフラッグを投げたBJが申告せず、オフィシャルレコードにも記載しなかったことが発覚。クルーへの信頼感に不安が過ぎる。

第2戦 明治学院大学 vs 帝京大学@戸塚へボンフィールド ポジション LJ

スケジュールの都合で普通は絶対あり得ないビル・レモニア氏が見学する天覧試合となる。緊張して全員ガチガチ。このゲームでの映像が次の日のビル・クリニックで（当然ながら）悪い例の教材に使用される。中でも（クリニックに参加された方は覚えているかもしれませんが）LJからはバウンドが見えずにワンバウンドのフォワードパスをコンプリートと判定したプレー。当日のポストゲームではHL以外全員バウンドを見ていたとコメントされ愕然とする（それなら誰か教えてくれよ）。映像で見てさらに唾然とし、クリニックでビル氏にクルーコミュニケーションが全く出来ていない例として紹介されて茫然自失となる。クルーワーク向上どころかクルー崩壊の予感が、。

あり得ない戸塚へボンフィールドでの天覧試合 試合前の記念写真

（ビデオ係の中内さんが、反対サイドの櫓に居たため参加できず。（-_-））

第3戦 成蹊大学 vs 武蔵大学@目白学習院大学グラウンド ポジション SJ

担当したレフリーコンビの方針で全員がポジションをシャッフル。これが裏目に。ポストゲームで教官から厳しい指摘があり映像で確認すると、なるほどメカニクが

全く出来てない。SWとDWで違うシグナルを出している等々、普通初戦から回を重ねるとクルーワークが良くなるはずがどんどん悪くなる結果に。のちに理事会では追試（第4戦）や留年も議論されたと聞かされる。この試合Rを担当したT氏はオープンサイドに展開するスウィーププレーで全くPOAに移動していないことが映像で確認され、「それが許されるのはビル・レモニアだけだ。」との教官からコメントを頂く（笑）。

終わりに

散々な内容の2017年アカデミーでしたが、その失敗の経験を糧に、これからのクルーワーク向上に生かすこと、それが卒業させてもらえた2017年度アカデミー生全員の決意であります。

最後になりましたが、東校長、薮内副校長、阿部浩司担当理事、事務局及び教官の馬島理事、阿部仁さん、ビデオ映像担当の中内さん、レビュー会場等で協力頂いた増田理事、その他アカデミー関係者の皆様に改めて感謝の意を表して体験記を終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

そして最後まで読んでくださった部員の皆様、ありがとうございました。



★FOA アカデミー事務局より★

お陰様で、2018年プログラムでFOA アカデミーも5年目を迎えます。2018年度は以下の変更を実施し、よりよいアカデミー経験を部員のみなさまに提供する所存です。

変更点

- 1) 希望すれば、アカデミー生をもう一年更新できる（最長2年）
- 2) レフリーには2年生のみをアサインする
- 3) 今までではハーフでレフリーを交代していたが、来年度より一試合を通してレフリーを担当する

（実戦形式と同じ）

変更の主旨

今回の変更により、実戦そのもののレフリーを経験できるとともに、「3試合では少なすぎる」というアカデミー生からのフィードバックを踏まえ、クルー形式でより6試合を経験できるようになります。これにより、アカデミー一年生は二年生をお手本として、次年度レフリーになった時の準備（プリゲーム～実戦～ポストゲームレビュー）ができると共に、レフリー以外のポジションからいかにレフリーやクルーをサポートできるかを学ぶことができます。秋シーズンに固定クルー制度を導入して四年たちますが、FOA アカデミーに参加することで、スーパーバイザーのサポートや指導のもと固定クルーと同じ体験ができます。有志のみなさま、是非奮って2018年度のFOA アカデミーにご参加ください。